

★R6.12.14開催 道総研業務説明会 アンケート質疑応答集

質問内容	回答
<p>人工衛星による海洋環境のデータ活用方法を拝見したのですが、そのデータを漁獲量の予測等へと活用することは可能なのでしょうか。</p>	<p>・現在試験公開中のGCOM-C衛星画像情報については、現時点では我々道総研水産試験場自身は具体的な漁況予測等への活用を実施していません。しかしながら、漁業現場等で利用できる活用方法を開発することは重要であり、今後取り組むべき研究課題と考えています。他方で、道総研水産試験場では漁業情報サービスセンターが提供する「日本周辺魚海況情報」などに調査船による海洋観測データを提供しており、提供されたデータは人工衛星情報や日本各地での漁業情報と統合されて海況・漁況の速報や予測に活用されています。</p>
<p>水産研究本部の方に質問したかったことです。道庁の普及員の仕事でも研究及び技術支援を行っていると思います。普及員と道総研の水産研究本部との最も異なっている点についてお伺いしたいです。</p>	<p>・道総研水産試験場（水産研究本部）では、漁業や水産加工業で活用するための研究開発を主たる業務としています。これに対し、北海道庁に所属する水産技術普及指導所では、道総研内外から発信された研究成果や技術を活用しながら、主に漁業現場に対して技術支援や普及活動を行っています。そのため、道総研水産試験場の職員は、研究成果について学会や学術誌において発表することも業務として位置づけられおり、大学や国立研究開発法人の研究機関の研究者と対等の立場で研究活動に取り組んでいます。なお、他都府県では研究職場と普及指導、あるいは行政の現場間を異動により行き来することがありますが、道総研の研究職員は北海道庁職員とは別に雇用されているので、原則として両組織間の異動はありません。しかしながら、道総研水産試験場と水産技術普及指導所は、上述のような互いの得意な領域を活かしながら連携することにより、北海道の水産業が抱える様々な課題に取り組んでいるところで</p>
<p>・水産部門における初期配属について</p>	<p>・試験区分ごとに本人の専門分野や適性を考慮の上、研究本部で配属先を決定します。</p>
<p>・水産分野での就職を希望しています。水産試験場が道内各地に複数あると思いますが、仮に就職した場合の転勤の有無や頻度を教えていただきたいと思います。また、希望地への配属も可能なのか併せてご回答いただきたいと思います。</p>	<p>・道総研水産試験場では多くの場合、異動の際に転勤を伴います。勤務地の希望については、年2回行う上司とのキャリア面談の際に申し出ることができます。その際の本人の意向を考慮しつつ、「誰に、どこで、どの仕事をしてもらうことが最も合理的か」を最大の判断基準として人員配置が検討されます。そのような理由から、1年未満で再び異動する場合や10年以上1箇所に在籍する場合もあり、転勤の頻度は一定していません。</p>
<p>・私は食品の研究の中でも、醸造に関する研究に携わりたいと思っているのですが、コースにはどのように配属されるのでしょうか。</p>	<p>・試験区分ごとに本人の専門分野や適性を考慮の上、各研究本部で配属先を決定します。</p>
<p>・北海道でのお酒や発酵食品の生産について現在行われている事例を詳しく知りたい</p>	<p>現在実施しているお酒や発酵食品に関する研究テーマは次のとおりです。          北海道独自の赤ワイン醸造用酵母を活用したワイン製造技術の開発          FT-IRワイン分析計による道産ワインの成分評価と品質管理指標の検索          網羅的解析を用いたワイン評価方法の開発          道産和風キムチの品質安定化に向けた乳酸菌スターターの有用性評価          発酵副産物を活用した粕漬けチーズの開発</p> <p>過去に実施した研究課題一覧については、ホームページに掲載されており、次のurlから確認出来ます。  <a href="https://www.hro.or.jp/industrial/research/food/develop/list.html">https://www.hro.or.jp/industrial/research/food/develop/list.html</a></p> <p>研究内容の詳細について、更に詳しく知りたい場合は          ご来所いただくかweb会議にて説明いたしますので、ご連絡下さい。</p>
<p>・どのような専門分野、人材が求められているか知りたい</p>	<p>申し訳ございませんが、現段階では採用に関する情報はお答えすることができない決まりになっております。3月8日（土）に開催する採用説明会でお話ししますので、是非ご参加ください。</p>
<p>・畜産試験場で飼育されている家畜の繁殖サイクルや飼料設計は研究されている職員が担当されているのでしょうか。また、技術支援や講師派遣などで道外の企業との関わりや、道外への出張をする事があれば教えていただきたいと思います。</p>	<p>・グループによって差異はありますが、基本的に家畜の飼料設計と交配計画は研究職員が担当します。技術支援は道内対応が中心ですが、講師派遣は道外企業との共同研究等に関連して依頼されることがあります。プロジェクト研究等、全国の研究機関と共同研究を行っている場合は会議等で道外に出張することがあります。</p>
<p>・外部から研究費採択のための申請書作成などは、なかなかのウエイトで時間がかかり、研究活動に当てる時間とトレードオフだと思いますが、所内の研究職員の方は何割程度の方がどのくらいの規模の外部研究費を取られているのでしょうか。</p>	<p>・研究本部により、また研究代表者/分担者により異なるので一概に言い切れませんが、概ね3割程度の研究職員が100～200万円規模の外部研究費を獲得しています。</p>

<p>貴機構の仕事での二つの役割として、研究と技術支援があることを知りました。分野や季節、個人によって異なるとは存じておりますが、可能であれば、研究と指導のお仕事のおおよその割合についてお聞きしたいです。よろしく願いいたします。</p>	<p>・分野や季節、個人の経験や部署によって異なるので一概に言い切れませんが、研究業務と技術支援業務をおおよそ7:3～8:2で計画的に遂行し、双方の業務で高い評価を得ている職員もいます。</p>																																																											
<p>貴機構は総合研究機構ということで、様々な分野の研究が行われていますが、他分野の方々との交流の機会はあるのでしょうか。農業研究本部と他の研究本部が共同で研究を行ったり、職員同士の勉強会があったりするのでしょうか。ご回答よろしく願いいたします。</p>	<p>・業務を通じて、他研究本部はもちろん、外部の研究機関や行政、民間企業等、道総研内外問わず様々な分野の方々と交流する機会があります。農業研究本部と他研究本部、あるいは道総研以外の機関と共同研究する機会もありますし、制度を活用した勉強会の開催も可能です。また新規採用職員研修では、所属外研究本部への派遣や、所属の異なる研究本部職員同士でグループワークを実施する等、他分野への関心と横との連携を促進しています。</p>																																																											
<p>・業務で得られた研究成果を発表する国内外の学会に用務として参加することは可能ですか？</p>	<p>・可能です。研究予算を活用した参加の他、研究職員専門研修制度の活用により業務成果の発表が研修派遣として認められた場合も参加することが可能です。</p>																																																											
<p>・機構に在職中に博士号取得する場合、資金援助制度はございますか。</p>	<p>・現段階では博士号取得のための資金援助制度は設けていません。</p>																																																											
<p>・業務上必要な場合の休日出勤や残業に関しては手当や振替休日は与えられるのでしょうか。</p>	<p>・就業時間外に勤務した場合は、勤務時間に応じた時間外勤務手当が支給されます。また、休日出勤した場合は、平日に休みを振り替えるか、休日勤務手当の支給を受けるかのいずれかになります。</p>																																																											
<p>・寒冷地手当とありましたが、これは全職員に配られるものなのでしょうか？それとも道北に配属になった場合のものなのでしょうか。また、冬季の暖房に係る燃料費には何か手当がつくのでしょうか。</p>	<p>・暖房費を含む生計費を補填する目的で寒冷地手当を道総研の全職員に支給しています（11月から翌年3月までの間）。額はエリアや世帯区分によって異なりますが、月8,500円～26,060円の範囲で支給します。</p>																																																											
<p>・寒冷地手当はどこの部署でも適応されますか。</p>	<p>・上記のとおりです。</p>																																																											
<p>仕事で使う作業服など必要なものは各自購入して用意しているのでしょうか。</p>	<p>・業務に必要な道具や作業着などは、基準に基づき道総研から貸与されます。</p>																																																											
<p>・「転勤もある」とのことでしたが、同分野（同本部）内で勤務地が変わる、ということでは合っているのでしょうか？</p>	<p>・ご認識のとおりです。基本的には、各研究本部を含め、その研究本部に属する試験場等の中で転勤することとなります。</p>																																																											
<p>・平均勤続年数について知りたいです。終身雇用の方は全体の何割ですか？</p>	<p>・道総研の研究職員の平均勤続年数は19.5年です。また、道総研の研究職員は定年制となっています（62歳まで：R6現在）（現在、任期付研究員はおりません）</p>																																																											
<p>・男女比率、またその中での年代比率などが分かりましたら教えていただきたいです。</p>	<p>・以下のとおりです。</p> <table border="1" data-bbox="1478 1136 2665 1346"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">総数</th> <th colspan="11">年齢階層（歳）</th> </tr> <tr> <th>18～24</th> <th>25～29</th> <th>30～34</th> <th>35～39</th> <th>40～44</th> <th>45～49</th> <th>50～54</th> <th>55～59</th> <th>60～64</th> <th>65</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全職員数</td> <td>1090</td> <td>41</td> <td>127</td> <td>91</td> <td>100</td> <td>75</td> <td>103</td> <td>195</td> <td>239</td> <td>119</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>女性職員数</td> <td>180</td> <td>17</td> <td>36</td> <td>19</td> <td>14</td> <td>16</td> <td>21</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>女性職員数の割合</td> <td>16.5%</td> <td>41.5%</td> <td>28.3%</td> <td>20.9%</td> <td>14.0%</td> <td>21.3%</td> <td>20.4%</td> <td>13.8%</td> <td>10.5%</td> <td>4.2%</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table>		総数	年齢階層（歳）											18～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65	全職員数	1090	41	127	91	100	75	103	195	239	119	0	女性職員数	180	17	36	19	14	16	21	27	25	5	0	女性職員数の割合	16.5%	41.5%	28.3%	20.9%	14.0%	21.3%	20.4%	13.8%	10.5%	4.2%	0.0%
	総数			年齢階層（歳）																																																								
		18～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65																																																	
全職員数	1090	41	127	91	100	75	103	195	239	119	0																																																	
女性職員数	180	17	36	19	14	16	21	27	25	5	0																																																	
女性職員数の割合	16.5%	41.5%	28.3%	20.9%	14.0%	21.3%	20.4%	13.8%	10.5%	4.2%	0.0%																																																	
<p>・（以下は把握できない事でしたらどうぞ無視してください、北海道出身ではない方の割合はどれほどでしょうか？）</p>	<p>・直近の採用の場合、約60%が道外出身者です。</p>																																																											
<p>・本日まで説明いただいた職員の方は民間企業等から転職された方が多い印象を受けたのですが、機構内でも転職組が多いのでしょうか。</p>	<p>・過去3カ年の間に採用された職員の場合、約50%が民間企業や公務員等から転職してきています。</p>																																																											
<p>・学士での就職で困ることはありますか。</p>	<p>・選考に当たっては、受験者の能力・適性を公平に判断しますので、課程によって基準が変わることはありませんし、実際に道総研で活躍している学部卒の方もいらっしゃいます。</p>																																																											
<p>・web上での試験があったかと思いますが、参考になるテキストがあれば教えていただきたく存じます。</p>	<p>・例年、一般的なSPI試験（大卒程度）を実施しています。R7年度に実施する試験内容については、2月末に公開予定の募集要項をご確認ください。</p>																																																											
<p>・採用試験に関して、適性検査や専門試験はどのくらいのレベルでしょうか。</p>	<p>・適性検査（Web）については、上記のとおりです。専門試験は、大学の講義内容をしっかりと理解できていれば解ける内容になっています。</p>																																																											
<p>・採用試験の概要や試験対策について等の情報が得られると大変参考になります。</p>	<p>・募集要項は、例年2月末に道総研ホームページで公開しています。試験対策については、大学の講義内容をおさらいしていただくとともに、研究職員の実体験等も参考にいただければと思います。（3月8日（土）オンライン採用説明会を実施）</p>																																																											